

福島県矢祭町に関する研究的関心

人間学群 教育学類 3年
芹沢 はる菜

1. 問題関心

矢祭町の合併しない宣言をしてから現在まで、市町村合併をした市町村に対する援助が無い中、いかにして町の財政を破綻しないようにしているのか。特に合併しない宣言をしたことによるメリット・デメリットに対する問題関心があった。

2. メリット・デメリット

調査には伺えていなかったため、事前調査のみになってしまった。ここはとてももったいなかったと思っている。

合併しない宣言をしたことのメリットは、町民の気持ちをひとつにすることができたことが一番大きいのではないかと考える。合併しない宣言は、矢祭町が昭和の大合併で現在の形に至ることで起こった問題を、これ以上起こさせないというところにある。

またデメリットとしては、財政面での合併した市町村を対象とする援助金が国から降りないことにある。この面では大きな打撃があるのではないかと考えられる。事前調査の資料にもあったが、町職員の数を最小限にするなどの対策をとり、対応していることがわかった。

3. デメリットの克服

しかし、教育や町の維持に対してのサービ

スは年を経る毎により良いものへとなっている。合併しない宣言をしたものの、町職員を削減するなどの対策でデメリットを克服している。合併しない宣言は同じ福島県全体を見ても異例とも言える宣言であり、そこから出てくるデメリットは矢祭町にとって合併したときよりもリスクは少ないと考えたのではないか。それだけ矢祭町は昭和の大合併での合併から、大きな傷を受けたのだと考えることができる。

4. 2009年度の「地域と教育」に参加して

今年度は前年度までとは違い、違うフィールドに出て調査を行うことになったため、地理がよくわからず、事前調査のみという形での実地調査になっていた。個人的には実地調査にも伺うことができなかつたため、得られたことは前年度よりは少なかったが、違う土地の調査をすることができ、とても有意義だったのではないかと考えている。

また、矢祭町という町を調べられたことで、現在までは「公民館」に注目して社会教育施設に興味関心を持っていたが、それだけではないということがわかった。ここもひとつ大きく得られたことなのではないかと感じている。